

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 あさがおねっと守口

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	荷物の場所等の配置を変えるなど行い、死角がないようにしている	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	適切である	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	玄関にスロープがあったり、パソコン教室をするための部屋があったりと工夫されている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	88%	13%	児童が掃き掃除してから清掃しており、日々チェックシートに記入している。活発な活動ができる空間がある。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	事業所会議にて意見を出し合い改善点を話し合っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88%	13%	モニタリング等を用いて保護者様の意向や要望を聞き、支援につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	88%	13%	ホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%	外部評価を頻繁には行っていない。外部評価を行った際は改善につなげている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	88%	13%	虐待防止研修や市の研修に参加している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	アセスメントの際に保護者の要望や児童の特徴を聞き、計画書を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	使用している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	50%	50%	10月に作成した計画には発達支援の内容を記載していたが、家庭支援・地域支援の記載がなかった。	4月に作成するにあたり発達支援・家庭支援・地域支援も考えながら、計画をしていく必要があると思う。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	児童の発達に応じて支援している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	会議で案を出し、検討している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	様々な活動を取り入れ固定化しないようにしている。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	個別活動・集団活動のそれぞれの内容のものが入るように作成している。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	88%	13%	会議の際に役割分担を行い、その日行う活動の進め方を話し合っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	88%	13%	その日あった出来事や送迎時に得た情報を共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	88%	13%	連絡帳やケース記録を用いて改善につなげている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的にモニタリングを実施し、計画書の見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管・管理者で参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	25%	75%	行えていない。	関係機関と連携し、支援の仕方や研修に参加をする。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	25%	75%	現在、対象の児童がいない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	25%	75%	現在、対象の児童がいない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	88%	13%	体験や送迎時に実施している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	88%	13%	行なっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	88%	13%	研修を受け、連携している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%	現在行えていない。	外出支援などでしか関わることがないので、地域との交流などに参加する必要がある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%	現在行えていない。	関係機関と連携し会議などに参加する必要がある。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や個別面談を用いて話し合い今後につながるようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	38%	63%	あまり行えていない	家族支援プログラムを支援員全体で理解をし、支援を行う必要がある。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に一つ一つ説明を必ず行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	説明を行い同意を得ている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	モニタリングの際や送迎時に助言を行い、支援も実施している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	保護者会を開催し保護者同士の交流の場を設けている	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	担当の職員が対応することで適切な対応を行なう環境作りを実施している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	あさがお通信を発行し、活動の様子を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	ブログに載せる写真の加工や名の入った紙類の処分等に注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	相手に伝わりやすい言い方で伝えるなど工夫している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	75%	25%	行事に地域の方も参加していただけるようポスターなど用いて設置し	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	緊急時の対応等を事前に話し合いマニュアル化に努めている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に防災訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	子どもの情報がわかるように用紙への記入をお願いし、確認を行っている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	報告があった児童については摂取しないよう注意している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	起こった内容を記録し、会議などの際に情報共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待の研修を行うとともに虐待の起こらない環境作りをしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	やむを得ず身体拘束を行うことがあることを事前に説明を行い、起こった際も複数の職員が説明できるように関り、その日のうちに保護者様に報告をしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。